

会議状況等報告書							報告者	小高 清楓			
会議の名称		令和6年度第1回大府市文化懇話会									
日時		令和6年5月21日(火) 15時45分～17時00分					場所	委員会室1			
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	伴恵	花井 里名	越後谷 卓司	張悦	山口 副市長			
		○	○	○	○	○	欠	○			
	事務局	岡村 市長	近藤 部長	田中 課長	細谷 係長	小野 主事	小高 主事	近藤 館長	内藤 館長	松井 館長	
○		○	○	○	○	○	○	○	○		
傍聴者 0名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>◆市長あいさつ</p> <p>大府市はバイオリンの里づくりに大変力を入れている。きっかけは、2021年に鈴木バイオリン製造株式会社の本社工房が本市へ移転したことである。</p> <p>5月19日には、あいち健康の森公園においてバイオリン/フィドル音楽の休日2024を開催し、バイオリンのみならず、多種多様な弦楽器による演奏やバンド演奏等を行った。現在は、秋に開催する大府みどり公園野外クラシックコンサートの調整を行っている。</p> <p>そして、小学4年生の音楽の授業にバイオリン学習を取り入れ、今年度からは新たに、おおぶジュニア弦楽団とジュニア合唱団を結成する。さらに、大府市の誇る音楽家である竹澤恭子さん、佐藤桂菜さん、進藤実優さんによる学校訪問コンサートの開催を予定している。</p> <p>バイオリン以外にも、大府市を舞台とした全国ネットのドラマを、テレビ愛知さんと協力して制作する。こちらには大府市ゆかりの俳優が出演する予定である。このように様々な分野で大府の文化を発信していきたいと考えている。</p> <p>さらに安田先生に長年ご指導していただいている大府子ども歌舞伎において、岐阜県から11月17日に開催される清流の国ぎふ地芝居・伝統芸能フェスティバルに愛知県代表としてご招待を頂いた。大変嬉しく思うと同時に、安田先生に深く感謝申し上げます。</p> <p>今後も、これまで積み上げてきた多様な文化事業展開を継続し、市民の方が文化芸術に親しみながら生活を送ることができるよう努めてまいりたい。</p> <p>今回の文化懇話会では大府市文化振興指針2024の改定に関するご意見を頂戴できると聞いている。忌憚のないご意見を頂き、本市の文化芸術活動にさらなる力添えを頂戴できればと思う。どうぞよろしくご意見申し上げます。</p> <p>◆安田文吉先生あいさつ</p> <p>大府市は他の市と比較すると、行事やイベント等の文化活動に適した土地である。歴史を踏まえながらもその時代に合った指針を取扱い、大府の特徴を発揮した文化振興支援を</p>											

行うことを期待する。

2. 委員・事務局自己紹介

- ◆新任委員あいさつ
- ◆各委員あいさつ
- ◆事務局自己紹介

3. 座長・副座長選出

座長に加藤武志委員、副座長に伴恵委員を選出

4. 議題

(1) 令和5年度下半期事業実績について

- ・資料No.1-1、1-2に基づき事務局説明

〈各施設からの補足〉

愛三文化会館館長)

おおぶ映画祭について

今年のおおぶ映画祭は、集客数が特に少なかった。一方、リピーターや関係者内での評価は上がっている。不特定多数あるいは新規の方の獲得が課題である。

おおぶ映画祭は大府市芸術祭・大府市文化祭との区別という観点で、第一ターゲットを大府市民に限らず、全国ベースに広げても良いのではないかと考えている。一方で、芸術祭や文化祭は第一ターゲットを大府市民とし、集客の状況次第で間口を広げていくことが好ましいのではないかと考えている。

アローブ館長)

HANDSIGN LIVE (ハンドサインライブ) について

HANDSIGN (ハンドサイン) とは、ダンスと手話で歌を表現するという男性デュオのグループ。このライブを12月に開催するにあたり、手話や聴覚障害について理解を深めるための事業を9月から11月にかけて行った。

まず、「僕が君の耳になる」という映画の上映を行った。また、9月から11月の3か月で「親子で学ぶ手話講座」を実施。23名の参加であった。講座の成果発表として365日の紙飛行機という歌を手話で表現したものをHANDSIGN LIVEのオープニングで披露し、大変好評だった。HANDSIGN LIVEの前後では、館内で手話や聴覚障害に関する理解を深めるパネル展示を実施した。

なお、事業の認知を拡げるための取り組みとして、愛知県立千種聾学校、愛知県立千種聾学校ひがしうら校舎へのチラシ配布、生徒と保護者の方のご招待を行った。

歴史民俗資料館館長)

メタバースを用いた「バイオリンの里おおぶ」のPR

仮想空間上で市長とおぶちゃんが鈴木バイオリンの紹介や歴史民俗資料館の案内を行うというコンテンツである。

〈意見交換〉

委員) おおぶ映画祭に関して、若い世代に現地まで足を運んでいただくことができない点が課題であると感じる。自身の経験として、アニメを使用した映画を上映した際は高校生等の若い世代の参加が見受けられた。この経験から、映画のコンテンツを工夫するなどして幅広い世代にアピールすることができたらよいのではないかと考える。

バイオリンに関する事業で市民の方に生の音をお届けするというものはやりがいのある事業だと感じている。

委員) 映画上映に関して状況が数年前からかなり変化しており、若い世代には、映画を配信で鑑賞する方が普通になっていることを、最近大学に勤めるようになって知った。そのため、若い世代の参加者獲得という点では、配信も手段の一つとして考えるのではないか。一方で、上映会形式が時代遅れかということ、そうでもなく、応援上映のような形態での映画上映も若者に需要があるように感じている。おおぶ映画祭に、それに相応しい作品があるかは分からないが、新たなアプローチとして一考に値するかもしれない。

委員) 市内音楽団体が保育園を演奏訪問するという事業で感動したというお声を多数聞いた。今後もこのような事業を継続して欲しい。

(2) 令和6年度事業計画について

・資料No.2に基づき事務局説明

〈各施設からの補足〉

愛三文化会館館長)

趣味の入門講座について

最終的に19講座開催する予定。今年度は茶華道の講座が新たに増えた。この背景として、各活動団体の高齢化があり、新規の会員の獲得を兼ねて、活動の紹介をしていきたいという思いがある。また、詳細は未定であるが、大府市が今年度の愛知県民茶会当番市であるため、会員も含めて市全体で盛り上げていけたらなという思いもある。趣味の入門講座による各活動団体の活性化を期待する。

アローブ館長)

10周年記念事業について

7月5日から7月7日の3日間で複数の事業を開催する。

まず育み隊が企画運営するTGIFのミニコンサートを前夜祭として5日に行う。また、毎年3月に開催しているカルチャーフェスティバルを今年度は7月6日に開催し、アローブをご利用いただいている団体・個人の皆様の発表の場としていただいた。最終日の7日には、日中は進藤実優さんのピアノリサイタル、夜間は鈴木良雄さんと福田重男さんのセタジャズライブを行う。セタジャズライブについては、カフェオムレットで行い、アフタヌーンティをお楽しみいただいた後にジャズライブを楽しんでいただくという内容で、

飲食付で3,000円である。

歴史民俗資料館館長)

企画展・特別展について

今年度は企画展を3回、特別展を1回予定している。

企画展の1つ目は、上入道古窯を紹介するもの、2つ目は、市民美術展で審査委員を務めてくださっている森克徳先生の陶芸の展示。陶芸の展示は歴史民俗資料館では初めてとなる。3つ目は、宮沢賢治さん所有の鈴木バイオリン製チェロを3Dデジタル化した展示である。このチェロは岩手県花巻市が空襲にあった際、奇跡的に焼失を免れたものである。

特別展では、大府市と都市間交流をしている岩手県遠野市について、紹介をする予定である。

〈意見交換〉

副座長) 長久手市開催の茶会に参加した際、待ち時間に音楽や歌舞伎の発表を見ることができた。それを受けて、大府市での県民茶会でも何か工夫をして多くの方に複数の芸術文化に触れていただけたらと思った。若者が文化活動に新たに参入しない理由の一つとして文化活動に触れる機会がないからということがあげられる。そのため、この茶会を通して文化活動を若者へ発信したい。また、県民茶会は市外の方が多く足を運んでくださる良い機会である。ここで大府市の魅力を発信したい。

委員) あいばまさやす企画展について、職員の作品展示で、同じ様なことは名古屋市美術館や愛知県美術館等では考えられない。こういう企画が成り立つ市民との近さこそ、大府ならではである。こうした方向性には、独自の可能性があると感じる。

委員) 若い女性を引き込むことができると集客の大幅増につながるのではないかと。若い女性は、友人や知り合いを誘ってイベントに参加することが多い。そのため、七夕ジャズライブのように、飲食やスイーツもセットにして参加するための敷居を下げたイベントは非常に良いと感じた。

(3) 大府市文化振興指針 2024 の改訂について

・資料No.3—1、3—2、3—3に基づき事務局説明

意見なし

(4) 最後に

助言者) 文化芸術にとって現場へ行ってその雰囲気を感じる事が大切である。大府でも子どもたちに現場の雰囲気を感じてもらい、積極的な参加を通じて様々な体験を身に付けてもらいたい。

座長) 本日のまとめをさせていただく。若い世代への継承の課題について、応援上映や配信、アニメーションなどで若世代に訴求するコンテンツを取り入れる必要がある。また、県民茶会の待ち時間での芸術鑑賞やロビーコンサート、アウトリーチなどで市民の方に現場で文化芸術を感じていただくことも大切である。現場でしか得ることができない感動や驚きが若い世代への継承にもつながると感じる。

大府は、笑い・落語・歌舞伎・映像、さらにはバイオリンと多くの文化活動事業を行っている。だからこそ何かをきっかけに、広く市民の皆様に身近に感じていただける工夫が必要だと思う。

5. その他

【次回開催連絡】

令和6年10月下旬予定